

為替週間展望 = ドル円は米経済指標次第で一進一退の動きか

[9月2日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		8月26日～8月30日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	144.24	145.55(29)	143.45(26)	145.05	+0.68
ユーロ・ドル	1.1193	1.1202(26)	1.1056(29)	1.1082	-0.0110

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	38,647.75	+283.48	日本10年債利回り	0.898	-0.002
ダウ平均株価	41,335.05	+159.97	米10年債利回り	3.862	+0.063

=====

<来週の主要経済統計等>

- 2日 豪7月住宅建設許可件数
中国8月財新製造業PMI
スイス7月小売売上高
独8月製造業PMI確報値、ユーロ圏8月製造業PMI確報値
英8月製造業PMI確報値
- 3日 豪第2四半期経常収支
スイス8月消費者物価指数、スイス第2四半期GDP
米8月製造業PMI確報値
米8月ISM製造業景況指数、米7月建設支出
- 4日 豪第2四半期GDP
中国8月財新サービス業PMI
独8月サービス業PMI確報値、ユーロ圏8月サービス業PMI確報値
英8月サービス業PMI確報値
ユーロ圏7月生産者物価指数
カナダ7月貿易収支
米7月貿易収支
カナダ銀行(BOC)政策金利
米7月製造業受注、米7月雇用動態調査(JOLTS)求人件数
米地区連銀経済報告(ページブック)
- 5日 豪7月貿易収支
高田日銀審議委員が講演
スイス8月雇用統計
独7月製造業受注指数
ユーロ圏7月小売売上高
米8月ADP雇用統計
米第2四半期非農業部門労働生産性指数、米新規失業保険申請件数
米8月サービス業PMI確報値
米8月ISM非製造業景況指数
- 6日 日本7月勤労者世帯家計調査、日本7月景気動向指数速報値
独7月鉱工業生産指数、独7月貿易収支
ユーロ圏第2四半期GDP確報値
米8月雇用統計
カナダ8月雇用統計
カナダ8月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】ドル円は144円台では底堅いものの、大きく上値を伸ばしにくいとみられ、144～146円台を中心とするレンジ相場で推移するとみられる。

【ドル円は143～145円台での振幅が続く】

8月23日の「ジャクソンホール会議」でのパウエルFRB議長の講演で、議長は金融政策を調整する「時は来た」と9月FOMCでの利下げ開始を明言した。これを受けて、米長期金利が低下するとともにドル売りの動きに傾いた。週明けの26日にドル円は143円台半ばまでドル安円高が進んだ。

その後のドル円は今後の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利下げが意識されて、ドル円は上値の重い展開を見せた。ただ、一方的にドル売りに傾いているわけではなく、26日以降のドル円は143～145円台での振幅を見せている。

28日に氷見野日銀副総裁は、経済物価の見通しが実現する確度が高まっていくということであれば、「金融緩和の度合いを調整していくというのが基本的な姿勢」と述べたほか、「市場は引き続き不安定な状況にある。極めて高い緊張感をもって注視していく」とコメントした。追加利上げを急がない慎重姿勢を示したとみられ、やや円売りに傾いた。

29日には米新規失業保険申請件数が前回から改善、米第2四半期GDP改定値が前期比年率+3.0%と市場予想や速報値の+2.8%を上回った。個人消費は+2.9%と市場予想や速報値の+2.3%を大きく上回った。景気や個人消費の力強さがドル買いにつながり、ドル円は145円台を回復した。

米国ではインフレ率が低下傾向にあり、市場の関心は物価から雇用に移りつつある。9月2日の週は米雇用関連指標が数多く発表される。4日に米7月雇用動態調査（JOLTS）求人件数、5日に米8月ADP雇用統計、米新規失業保険申請件数が発表される。

そして9月6日には8月の米雇用統計の発表がある。8月21日に発表された米労働省の年次改定での雇用者数（2023年4月から2024年3月の1年間）の年次改定値（速報）が81.8万人の下方修正となった。市場でうわさされた100万人には届かなかったものの、大幅な改定となっており、今後の米労働市場への警戒感が広がっている。

今後は米雇用関連指標を中心に米経済指標の動向に左右されやすいとみられる。ただ、米経済指標が悪化一辺倒でドル売りが大きく進むとは想定しにくい。ドル円は米経済指標の結果次第で一進一退の動きが見込まれる。こうした中、目先は143～145円台を中心とするレンジ相場で推移することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、142.00～147.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、3日に米8月製造業PMI確報値、米8月ISM製造業景況指数、米7月建設支出、4日に米7月貿易収支、米7月製造業受注、米7月雇用動態調査（JOLTS）求人件数、5日に米8月ADP雇用統計、米第2四半期非農業部門労働生産性指数、米新規失業保険申請件数、米8月サービス業PMI確報値、米8月ISM非製造業景況指数、6日に日本7月勤労者世帯家計調査、日本7月景気動向指数速報値、米8月雇用統計などがある。

【ユーロドルは調整局面入りか】

ユーロドルは米国での利下げ観測の高まりからドルが売られたことで、26日に1.12台に乗せた。ただ、その後は同水準を維持できずに軟化している。29日にはドルが買い戻されて1.11割れまで下落している。

ユーロドルは8月2日安値の1.0782近辺から26日に1.1202付近まで大きく上昇してきた。その後下げに転じて、これまでサポートとして機能してきたボリンジャーバンド+1σや一目均衡表の転換線を割り込んでいる。ユーロドルはそれまでの大幅な上昇の反動から、調整局面に転じるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1000～1.1250ドル。

ポンドドルは上昇トレンドが継続して、27日に1.3260台まで上値を伸ばした。その後は高値から軟化している。ポンドドルはユーロドルに比べて相対的に堅調な

動きを見せている。ただ、5日移動平均線を割り込んでおり、これまでの上昇に対する反動から、軟調に推移するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.3000～1.3250ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、2日に豪7月住宅建設許可件数、中国8月財新製造業PMI、独8月製造業PMI確報値、ユーロ圏8月製造業PMI確報値、英8月製造業PMI確報値、3日に豪第2四半期経常収支、スイス8月消費者物価指数、スイス第2四半期GDP、4日に豪第2四半期GDP、中国8月財新サービス業PMI、独8月サービス業PMI確報値、ユーロ圏8月サービス業PMI確報値、英8月サービス業PMI確報値、ユーロ圏7月生産者物価指数、カナダ7月貿易収支、カナダ銀行（BOC）政策金利、5日に豪7月貿易収支、スイス8月雇用統計、独7月製造業受注指数、ユーロ圏7月小売売上高、6日にユーロ圏第2四半期GDP確報値、カナダ8月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。